



学校教育目標

学校だより

高社の里

思いを「聴こう」「語ろう」「創ろう」

令和2年1月14日

中野市立高社中学校

学校評価アンケート② 結果速報

本年度2回目となる学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。集計結果は以下のとおりです。

質問項目	とても思う・思う %
1 お子さんは、学校へ行くのが楽しいと感じている	86.9
2 お子さんは、学校で、地域で、すすんで挨拶をしていると感じている	77.2
3 お子さんは、学校のきまりを守ったり、友だちや身のまわりにあるものを大切にしたりしていると感じている	89.0
4 学校は、生徒の安全、健康管理のために取り組んでいる	82.1
5 学校は、よりよい教育活動が行えるような教室環境、設備が整っている	84.1
6 学校は、地域の方や保護者の方が相談をしたり、考えを伝えたりしやすい雰囲気になっている	75.2
7 学校は、通信やホームページなどで学校での生徒の様子をわかりやすく発信している	62.5
8 学校は、生徒の悩みやトラブルなどを見逃さず、適切に対応している	63.6
9 学校は、いじめのない学校、学級、集団作りに取り組んでいる	49.2
10 学校には、体罰がない	61.0
11 学校は、わかりやすく学習意欲が高まるような授業を行っている	62.5
12 お子さんは、授業でわからないことを友だちに聴いたり、聴かれたら答えたりしていると感じている	56.2
13 学校は、お子さんが家庭学習に取り組みやすくなるような工夫を行っている	53.7
14 お子さんは、学校からの「おたより」を、保護者に渡している	60.3

今回も、学校運営（授業、部活、生活指導、学級学年経営等）に関する感謝や励ましを数多くいただき、嬉しい気持ちで拝見しました。一方、授業の進め方、家庭学習のありかた、部活指導のありかた、夏場のエアコン利用や生徒の服装（暑さ対策）、夏休みの長さなど年間計画に関わること、給食時間など日課に関わること等、多岐にわたるご意見をいただきました。

ご意見ご要望等は、担任や顧問に直接お伝えいただくことが望ましいと考えますが、直接言いにくい内容について匿名でご記入いただいたと受け止めています（無記名なので、詳細をうかがったり直接回答したりすることが難しいケースがありますことをご了承ください）。ご意見ご要望に対する対応等、検討し今後活かしていきたいと思っております。今後も、気になることや心配な情報がありましたら、学校までお伝えください。全ての学校職員が、窓口として対応させていただきます。特に保健室は心と体の相談窓口として、いつでも声をかけてください。

12月のスナップ



12/20 アルミ缶収集とくすみ販売の収益金で車いすを3台購入し、1台を高齢者施設「高社の家」に寄贈しました。新聞や通信等により、既にご存知の方も多と思います。残りの2台は「望の里高社」に寄贈しました。

3年代表 工藤ゆらら さん

2学期頑張ったことは駅伝と高社祭です。駅伝はチームでタスキをつなぐ競技です。顧問の先生の「周りを見て、仲間を大切に、先を読みなさい」という言葉を大切に走りました。高社祭で私はクラス合唱の指揮をしました。高社祭は学校の最大イベントです。1年生の時も、2年生の時もやりましたが、やはり3年生の時は格別でした。クラスの仲間と過ごすことができる残された日々を大切に過ごしたいです。



12/26 2学期終業式がありました。3人の代表が作文を発表してくれました。下に作文の抜粋を紹介します。

1年代表 武田拓斗 さん

2学期に頑張ったことは、高社祭実行委員会です。今年は50周年記念ということで、僕はくす玉を作ることを提案し、くす玉の土台作りを担当しました。くす玉を割る瞬間は、たった一瞬間なのに、それまでの大変さを思い出してとても緊張しました。ですが、きれいに割れたのでうれしかったです。

2年代表 新井啓太 さん

2学期、所属する野球部で県大会に出場することができました。初戦に佐久長聖中学と当たりました。全員、全力でプレイしましたが負けてしまいました。僕は、いつもならできるプレイも緊張してできませんでした。冬にトレーニングをして自分のプレイのレベルを上げていきたいと思いません。

校長先生のお話(抜粋)

社会全体を振り返ると、やはり台風19号による被害と現在も続いている被災からの復旧・復興が印象深いです。連日、テレビや新聞、ネットでも報道、発信されたので、千曲川の堤防決壊とそれにもなう浸水の被害は大きなショックを受けました。自然の力の前では、我々人間の力がいかに小さいものなのかとも思いました。

しかし、そのいっぽうで、ヘリコプターやボートなどで多くの被災をされた方がたが救助されているようすを見たり、水浸しになって家具が散乱してしまったり、住宅や真っ赤な実がなっているりんご畑から、スコップなど手作業で泥を運び出している住民のかたや全国各地から集まったボランティアの皆さんの姿を聴いたりもしました。思いもよらない大きな自然災害の中、もう立ち直れないんじゃないかと思われるような状況でも簡単にはへこたれない、私たち人間の力のすばらしさ、たくましさ、温かさを感じました。

最近読んだ時代もの、江戸時代のお侍を主人公にした小説の中に、主人公が心を動かされるセリフにこんなのがありました。「本当に強いのは、負けない者ではなく、何度でも立ち上がることができる者だと。いつだったか、父上がそのように。」

こうやって振り返ってみると、2学期、そして今年1年、皆さん一人ひとりにとっても、乗り越えなければならなかった挑戦、予想もされなかった困難があったのかもしれませんが、それでも皆さんで今日という日を迎えることができました。

